厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
男性同性間のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

MSM及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（2）
-Community-Based OrganizationによるHIV予防啓発活動のプログラム評価-

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部　講師）
金子典代（名古屋市立大学看護学部　准教授）
研究協力者：岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta）、荒木順子、佐久間久弘、木南拓也（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人akta）、柴田惠、阿部甚兵、大島岳（特定非営利活動法人akta）、市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

研究要旨

研究1では、当該CBOが実施しているHIV/AIDS予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することにより適切なプログラム評価指標を策定すること、さらにそれらの指標を実際に測定することで、コミュニティへのHIV予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的としている。東京のCBOの介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。有効回答は190件。コミュニティ活動への共感に関する5項目は「雰囲気に溶け込んだ活動をしている」を除き、有意に生涯のHIV検査受検経験があることと関連しており、検査受検群ではCBOによる予防啓発活動親和性の高い人の割合が高かった。aktaの活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿二丁目に溶け込んだ活動をしているとの項目で３年以内のHIV検査受検と関連していた。一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の60.5%であり、HIVや性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。CBOがコミュニティに根差して訴求力の高いHIV/AIDS予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちに共感されるHIV/AIDS予防啓発活動を行うことによって、検査受検行動及びコンドーム使用といったHIV/AIDS予防行動を促進していく必要がある。

研究2では、若年層のHIV/AIDS及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象を調査し、今後の予防介入方法の検討に資する基礎データを得ることを目的としてインタビュー調査を行い、語りについてまとめた。知識の不足による経済負担への懸念、HIV感染を具体的にイメージできないことによる検査動機の喪失、検査の障壁としてのカミングアウト、メディア表現を妄信していることなどの様子を伺うことができた。

A.研究目的

《研究１》

ゲイ・バイセクシュアル男性を対象としたHIV/AIDSの予防啓発を担うCommunity-Based Organization（CBO）は、啓発活動を行うにあたり、おおまかに２つのプロセスを重視して活動していることが、これまでに本研究班で実施したプログラム評価研究によって明らかになっている。

一つ目のプロセスは、新宿二丁目の文化や価値観、文脈を尊重しつつ顔と顔を合わせた活動を行うことでコミュニティの一員(仲間)

としての存在感を示し、コミュニティからの信頼と共感を得るプロセスである。もう一つのプロセスは、信頼のおける身近な仲間が、自分たちの街を盛り上げながら行っているHIV 予防啓発活動として受け入れてもらうことによって、CBO が出すメッセージは自分たちに対するメッセージだと感じてもらうことである。これらが達成されることによって、対象者に対して高い訴求力を持つメッセージとして伝えることが可能になる。

本研究は、当該 CBO が実施しているHIV/AIDS 予防啓発活動を、介入プログラムとして記述することによって、適切なプログラム評価指標を策定する。さらにそれらの指標を測定することによって、コミュニティへのHIV 予防啓発活動の進展度合いや啓発活動の有効性、改善点の検討といったプロセス評価を行うことを目的とする。

昨年度に引き続き CBO が想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重とコミュニティメンバーとしての受け入れと共感」及び「コミュニティ感覚」というコンセプトと予防行動との関連性を検討した。

《研究２》

若年層の HIV/AIDS 及びセクシュアルヘルスに関する意識や検査に対する印象をインタビューによる語りによって質的に調査し、今後の予防介入方法の検討に資する基礎データを得る。

B. 研究方法

《研究１》

【調査の実施】東京の CBO の介入地域のひとつである新宿二丁目の商業施設等を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、インターネット上の質問票による調査を行った。調査参加者のリクルートは、調査実施を告知するポスターの掲示とともに、調査サイトへのリンク（QR コード）を記したカードを「東京レインボー祭り」会場にて配布した。参加者は各自の保有する携帯端末等からインターネット上の質問票サイトへアクセスし、調査に参加した。質問票サイトのトップページにおいて、質問への回答をもって調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を記した。謝礼はコミュニティセンターakta にて回答終了画面を確認の上、「東京レインボー祭り」開催期間中の 15 時から18 時の間に 1,000 円分の QUO カードを謝礼として手渡した。

【調査期間】平成 28 年 8 月 14 日（日）に開催された「東京レインボー祭り」のおおよそ 3 日前からポスター等を配布しイベント終了時刻の 18 時までの謝礼引き渡しとした。

【質問項目】年齢、居住地、利用施設、コミュニティセンターの認知、コミュニティペーパー等の認知、キャンペーンの認知、HIV 感染予防行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知とコンセプトへの共感（5 項目）、新宿二丁目に対するコミュニティ感覚（4 項目）それぞれについて選択形式で尋ねた。コミュニティ感覚は Sense of Community index (McMillan & Chavis,1986)の日本語版（笹尾ら,2003）の構成概念を参考に作成した。新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる（メンバーシップ）、新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる（メンバーシップ）、新宿二丁目でしか得られないものがある（統合とニーズの充足）、新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたい(情緒的結合の共有)の 4 項目について、そう思うからそう思わないまでの 5 件法でたずねた。

【分析方法】質問項目ごとに記述集計を行なった。年齢階級、生涯の HIV 検査受検経験、過去 1 年以内の HIV 検査受検経験、性感染症の罹患経験、一番最近のアナルセックス時のコンドーム使用行動とのクロス集計を行って、関連を検討した。

【倫理面への配慮】本研究は侵襲を伴わない連結不可能匿名化のデータを収集する疫学調

査である。本研究の研究計画については名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した(承認番号 14025-3)。

《研究２》

【調査の実施】研究参加者の取り込み基準は、概ね 30 歳未満のゲイ・バイセクシュアル男性とした。参加者のリクルートはNPO 法人 akta が運営するコミュニティセンターに依頼して、ボランティアスタッフやその知人等に呼びかけてもらい、参加者を集めた。

実施日及び場所は参加者の都合を優先して設定し行った。調査方法は、半構造的グループインタビューとし、インタビュアーは研究者が行った。グループは 5 名以内として対象者の話しやすさとプライバシーの確保に配慮を行った。調査実施は、平成 28 年 12 月。

【質問項目】自身あるいは知人が HIV 検査に対してどのようなエピソードや印象を持っているか。最近の若い人が HIV や AIDS の予防についてどのように感じていると思うか。検査を受けることについてどう感じているか。セクシュアルヘルスに関する情報源について、一問一答ではない雑談形式で話を進めた。

【分析方法】IC レコーダによる録音データをテキストに起こし、検査、予防、セクシュアルヘルスと言ったキーワードを基にテキストマイニングを行った。テキストマイニングは、分析対象とする単語から距離をスコア化し、関連する語を抽出する方法で行った。テキストマイニングには「KH Coder」を用いて行った（http://khc.sourceforge.net/)。

【倫理面への配慮】研究の参加または不参加に伴い、一切の不利益を伴わないことをリクルート時に説明した。また、リクルートをするものは仲介を行うものであり、確保人数の多少に関して、利益あるいは不利益を伴わないことを確認した。本研究の研究計画については山梨県立大学看護学部研究倫理審査委員会より承認を得て実施した(承認番号 1629)。

C. 研究結果

《研究１》

【調査参加者の属性】調査サイトへのアクセス数は 248 であったが有効回答データ 190 件を分析対象とした。

東京および近県の居住者が 92.1%と多数を占めていた。年齢は 24 歳以下 16.3%、25-29 歳 25.3%、30-39 歳 30.0%、40 歳以上 28.4%であった（表 1)。

【過去 6 ヵ月間のゲイ向け施設やサイトの利用状況】コミュニティの街頭イベントでリクルートを行ったこともあり、バーの利用者が 81.6%と最多であった。近年調査や啓発等で活用されることの多いスマートフォンのゲイ向けアプリは 61.1%の人が使用しており、年齢階級による利用状況の傾向はみられなかった。有料のハッテン場の利用は 40.5%であり、年齢との関係は見られなかった（表 1)。

【CBO による予防活動の認知】コミュニティセンターの認知は、コミュニティセンターを知っていて行ったことがある 54.7%、知っているがまだ行ったことはなく行ってみたいと思っている 14.7%であった。資材の認知割合はヤローページ 49.5%、akta monthly paper が 55.3%と約半数の人が今後も見かけたら読むとの好意的な認知をしている。(表 2)

【CBO による予防啓発活動に対する共感、年齢階級別】特別な人がやっているのではなく自分の仲間がやっている活動だと感じる、自分へのメッセージだと感じる、活動に共感する、の 3 項目は年齢が高くなるほどそう思う/まあそう思うと回答した人の割合が高くなっている（表 3)。

【コミュニティ感覚、年齢階級別】「二丁目でしか得られないものがあると思う」は 24 歳以下の層で比較的高く、年齢が上がると低下している。HIV について話すことにタブー感（ためらい）を感じるは 24 歳以下で 48.4%と高く、その他の世代では約 3 割ほどであった。（表 4)

【HIV 検査の受検経験、年齢階級別】HIV 検査

の生涯受検割合は若年層で低い傾向にある。若年層では一番最近に検査を受けた時期が1年以内である人が6割であるのに対して、年齢が高くなるにつれ、その割合が下がってくる。

【性感染症の既往】性感染症では毛じらみが25.8%と最も多いが、梅毒12.6%、B型肝炎11.6%といった感染症の罹患者も多い(表5)。

【検査受検とコミュニティ活動の指標】コミュニティ活動への共感に関する5項目は「雰囲気に溶け込んだ活動をしている」を除き、有意に生涯のHIV検査受検経験があることと関連しており、検査受検群ではCBOによる予防啓発活動親和性の高い人の割合が高かった。コミュニティ感覚の項目と生涯の検査受検には関連が見られなかった。aktaの活動に共感する、前向きで話しやすい雰囲気を感じる、新宿二丁目に溶け込んだ活動をしているとの項目で3年以内のHIV検査受検と関連していた。(表6)

【コンドーム使用行動とコミュニティ活動の指標】一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用は全体の60.5%でありCBO活動への共感とは有意な関連が見られなかったが、HIV や性感染症の予防活動に自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思うとの項目で有意差が見られた。(表7)

《研究2》

5名に対して1回のグループインタビューを行った。会話時間は60分。

検査について、予防とセクシュアルヘルスに関するかたりをまとめた。(別表)

【検査について】検査を受けることによって、ゲイであることを近親者にカミングアウトしなければならないと考えており、検査に行って感染がわかることよりも、ゲイであることをカミングアウトすることの障壁を高く感じていた。「*まだ未成年だから、親のこととか考えると、自分がただでさえ世間の風当たりが激しいじゃないですか、ゲイだというと。なのに、HIV とかというふうに言われたとしたら、もし、言われたとしたら、本当に、さっき言ったような最悪の形で親に言わないといけないし、そのHIVについても、親とかは、あんまり知識がないわけだから、そこで、また親から差別される*」

一方、ゲイであることのカミングアウトに関して親に理解があれば検査に支障を感じないという語りもあった。「*カミングアウトしてて、親があっけらかんとしてれば、多分受けに行きなよぐらいは言ってくれると思う。*」

感染した後の生活についての具体的イメージの欠如によって、その入り口である検査ということの意義を見出すことができていない。「*その後の生活が、まずビジョンが見えてこない、まず。感染してたら、まず何をするのか。何をどうして、どう生活をしていったらいいんだろうというのが全く見えないから、感染したらね、何、どうすればみたいな。してないといいんだけど、とりあえず検査受ければわかるからという感じではある*」

【予防と受検】メディアの影響を示唆する語りが複数見られた。「*AVで、こう、アナルセックスは気持ちいいもんだみたいなイメージがつけ加えられてて、生でやる映像も確かある*」、「*漫画とかも、結構生でやってる*」、「*漫画に書いてあることは正しいってやっちゃう*」

知識が不足していること、経済的に自立していないため検査受検や保険、医療費負担について負担を懸念していることが伺える。「*20歳を超えてたらさ、何か自己責任で自分で全部できそうじゃん。超えてなかったら、親とかにバレたらどうしようみたいな*」、「*まず保健所で無料で受けれるということも知らないし、何かお金がかかるというイメージ。だから、若い子はお金がないから、なかったりするから、受けれない*」

D.考察

《研究1》

コミュニティセンターの認知は、コミュニティセンターを知っていて行ったことがある

54.7%、知っているがまだ行ったことはなく行ってみたいと思っている 14.7%であったのに対して、名前を知っているが行ってみようと思わないあるいは名前は聞いたこと程度で何かよく知らないが合わせて 18.4%あった。知っているか否かを問う単純な認知割合では、CBO が運営するコミュニティセンターとしての認知のされ方に乖離があることがわかる。コミュニティペーパーにおいても同様で、ヤローページを知っている人は 74.2%であるが、うち 24.7%は読んだことはあるが今後読もうとは思わないまたは見かけたことはあるが読んだことがないであった。akta monthly paper も 75.8%が見たことがあるが、20.6%が読んだことはあるが今後読もうとは思わないまたは見かけたことはあるが読んだことがない人であった。介入名称の認知の有無だけでコミュニティにおける予防啓発活動の評価指標とすることは大きな誤差を生じることが考えられる。また、啓発に曝露されている集団の中にもそのメッセージや手法がフィットする人とそうではない人がいることが明らかになった。コミュニティの予防啓発では一つのやり方だけはなく、フォーマティブリサーチを行いつつ、様々な対象層へ向けた情報コミュニケーションが重要であることが示唆される。

生涯の HIV 検査受検経験は全体で 74.7%であり、これまでの類似の調査と同等の結果であった。過去 1 年間の HIV 検査受検経験は全体で 57%であり、新宿二丁目を中心としたサンプリングによる調査と同等の結果であった(金子,2015.)。

CBO による予防啓発活動に対する共感の 3 項目は年齢が高くなるほどそう思う/まあそう思うと回答した人の割合が高くなっている。若年層に対する共感や信頼を獲得するとともに、若年層に向けたコミュニケーション手段の検討が必要であることが示唆される。ただし、若年層は相対的に CBO 介入への曝露期間が短いことによる影響も考えられる。この場合は継続的にコミュニティに来てもらうためのアプローチ方法を検討することが必要になる。

生涯の HIV 検査受検経験は全体で 74.7%であった。生涯経験なので年齢が若いと低い傾向にあるが、それでも 54.8%は受検経験のある対象であった。ただし、近年は年間数回の定期的な検査が推奨されているため、過去の検査履歴だけではなく、最近の性行為等で感染の可能性がある人に対して、検査ができる機会を紹介していくことも重要となる。

コミュニティ活動に対する共感は予防行動、特に検査受検行動に関連していたが、コミュニティ感覚は予防行動にあまり関連が見られなかった。今後はこの理由に関する検証と評価指標の再検討および活動プロセスの見直しが必要になると考える。

《研究２》

若い人の特徴として、コミュニティに出てこない人に関しては特に知識が不足していて、検査や HIV/AIDS の予防に関する基本的な情報を得ることができていない状況がうかがわれる。そのため、HIV 検査を受けることの意義を自分の中で見出すことができず、費用負担やきっかけがないこと、都合を合わせることが難しいことなどが理由の一端となっていることが推察される。また、メディアによる影響は大きく、インターネットの情報や動画、漫画などの性描写において、予防に関する描写が行われていないことを真実と捉え、自身の行動に反映している可能性がある。

E. 結論

《研究１》

今回の調査においても CBO がコミュニティに根差して訴求力の高い HIV/AIDS 予防啓発活動をしていく上で、活動の対象であるコミュニティの人たちが CBO に対して共感(empathy)と信頼を持っていることが重要であることが確認された。当該 CBO をコミュニティの仲間とみなし、コミュニティの雰囲気

や文化に則した活動をしていると認知し、その活動に共感するとともに支持する感情を持つことによって、CBO が発信するメッセージが自分に向けたものだと感じる。そのメッセージを受け入れることによって、検査受検行動などの HIV/AIDS 予防行動に発展していくものと考える。

コミュニティセンターはコミュニティのメンバーあるいは街の人がコミュニティの課題や問題を自らの力で解決していこうという“コミュニティ活動”を実践するための拠点である。コミュニティの課題をわかりやすい形で提示するとともに課題の重要性や緊急性を共有すること、双方向の自由かつ対等なコミュニケーションの場を提供することによって、信頼あるコミュニケーションセンターとして機能することができる。今後の HIV/AIDS の予防における PrEP や PEP などの最新の医療情報に備えて、医療者とコミュニティの情報の非対称性を緩和するヘルスコミュニケーションの場として、信頼に基づく対等で自由な関係性を担保したコミュニケーションを行うことのできるコミュニティセンターとしての役割を強化していくことが期待される。

《研究２》

若い人の特徴は予防に関する基本的な情報の到達度と関連していると考えられた。すなわち、セクシュアルヘルスと HIV/AIDS の予防に関する十分な知識がないことによって、予防行動が妨げられている状況がうかがわれる。これはコミュニティセンター等のある都市部では多少カバーされるが、地方においては十分な情報提供の機会が少なく、またその状況においては信頼のおける情報源自力でたどり着くことが難しい。「若い世代」を対象とする HIV 予防啓発に於いては商業施設を中心とするコミュニティ以外の場所へ向けても、信頼できる支援につながることができる情報発信を試みるべきであると考える。

F. 発表論文等

市川誠一，塩野徳史，金子典代，本間隆之，岩橋恒太：MSM (Men who have sex with men) における HIV 感染予防とコミュニティセンターの役割．化学療法の領域，32(5):1029-1038，2016.

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

引用文献

笹尾敏明，小山梓，池田満．次世代型ファカルティ・ディベロップメント（FD）・プログラムに向けて：コミュニティ心理学的視座からの検討　国際基督教大学学報 1-A，教育研究，45:55-71,2003.

金子典代：MSM およびゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較(1):厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその介入効果の評価に関する研究」,2015.

表１. 居住地および利用施設等、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
首都圏在住										
それ以外	1	(3.2%)	4	(8.3%)	5	(8.8%)	5	(9.3%)	15	(7.9%)
東京千葉埼玉神奈川在住	30	(96.8%)	44	(91.7%)	52	(91.2%)	49	(90.7%)	175	(92.1%)
利用している施設など（過去6ヵ月）										
1 ゲイバー	28	(90.3%)	41	(85.4%)	42	(73.7%)	44	(81.5%)	155	(81.6%)
2 ゲイナイト	17	(54.8%)	18	(37.5%)	26	(45.6%)	12	(22.2%)	73	(38.4%)
3 ゲイショップ	12	(38.7%)	22	(45.8%)	23	(40.4%)	25	(46.3%)	82	(43.2%)
4 ＰＣ出会い系サイト	5	(16.1%)	8	(16.7%)	7	(12.3%)	11	(20.4%)	31	(16.3%)
5 携帯出会い系サイト	10	(32.3%)	10	(20.8%)	12	(21.1%)	18	(33.3%)	50	(26.3%)
6 mixi などの SNS	10	(32.3%)	11	(22.9%)	16	(28.1%)	20	(37.0%)	57	(30.0%)
7 エロ系SNS(HuGs や男子寮など)	0	(0.0%)	5	(10.4%)	3	(5.3%)	6	(11.1%)	14	(7.4%)
8 ゲイ向けアプリ	21	(67.7%)	28	(58.3%)	38	(66.7%)	29	(53.7%)	116	(61.1%)
9 ゲイ向けサークル	9	(29.0%)	2	(4.2%)	13	(22.8%)	8	(14.8%)	32	(16.8%)
10 ゲイ向け合コン	3	(9.7%)	4	(8.3%)	2	(3.5%)	2	(3.7%)	11	(5.8%)
11 ゲイの乱パ	3	(9.7%)	2	(4.2%)	2	(3.5%)	3	(5.6%)	10	(5.3%)
12 有料のハッテン場	14	(45.2%)	14	(29.2%)	29	(50.9%)	20	(37.0%)	77	(40.5%)
13 野外のハッテン場	5	(16.1%)	1	(2.1%)	5	(8.8%)	2	(3.7%)	13	(6.8%)
14 ハッテン場で有名な銭湯・プール等	9	(29.0%)	13	(27.1%)	15	(26.3%)	13	(24.1%)	50	(26.3%)
15 いずれもない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	3	(5.3%)	5	(9.3%)	10	(5.3%)
過去6ヵ月間に恋人・彼氏、友達とHIVやエイズについて話したことがありますか？										
ある	20	(64.5%)	26	(54.2%)	36	(63.2%)	35	(64.8%)	117	(61.6%)
ない	11	(35.5%)	22	(45.8%)	21	(36.8%)	19	(35.2%)	73	(38.4%)
過去6ヵ月間に、コンドームをすぐに使えるよういつも身近に持っていましたか？										
いつも持っていた	9	(29.0%)	14	(29.2%)	14	(24.6%)	18	(33.3%)	55	(28.9%)
時々持っていた	12	(38.7%)	16	(33.3%)	17	(29.8%)	19	(35.2%)	64	(33.7%)
持っていなかった	10	(32.3%)	18	(37.5%)	26	(45.6%)	17	(31.5%)	71	(37.4%)

表２.CBO による予防啓発活動の認知、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
新宿2丁目にある「コミュニティセンターakta」という場所を、知っていますか？										
知っている/行ったことがある	16	(51.6%)	25	(52.1%)	36	(63.2%)	27	(50.0%)	104	(54.7%)
知っていて行ってみたい/まだ行ったことはな	4	(12.9%)	8	(16.7%)	3	(5.3%)	13	(24.1%)	28	(14.7%)
知っているが行ってみようとは思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	4	(2.1%)
名前は聞いたことがある程度で何か良く知らな	3	(9.7%)	9	(18.8%)	8	(14.0%)	11	(20.4%)	31	(16.3%)
名前も聞いたことがない	7	(22.6%)	5	(10.4%)	8	(14.0%)	3	(5.6%)	23	(12.1%)
aktaが作っているヤローページを読んだことがありますか？										
読んだことがあり今後も読みたい	7	(22.6%)	12	(25.0%)	15	(26.3%)	18	(33.3%)	52	(27.4%)
読んだことがあり見かけたら読む	3	(9.7%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	12	(22.2%)	42	(22.1%)
読んだことはあるが今後は読もうとは思わない	1	(3.2%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	0	(0.0%)	4	(2.1%)
見かけたことはあるが読んだことはない	11	(35.5%)	10	(20.8%)	11	(19.3%)	11	(20.4%)	43	(22.6%)
知らない	9	(29.0%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	13	(24.1%)	49	(25.8%)
aktaが発行しているakta monthly paperを読んだことがありますか？										
読んだことがあり今後も読みたい	11	(35.5%)	14	(29.2%)	19	(33.3%)	24	(44.4%)	68	(35.8%)
読んだことがあり見かけたら読む	1	(3.2%)	11	(22.9%)	15	(26.3%)	10	(18.5%)	37	(19.5%)
読んだことはあるが今後は読もうとは思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	6	(3.2%)
見かけたことはあるが読んだことはない	5	(16.1%)	8	(16.7%)	8	(14.0%)	12	(22.2%)	33	(17.4%)
知らない	14	(45.2%)	13	(27.1%)	12	(21.1%)	7	(13.0%)	46	(24.2%)
新宿二丁目でコンドームなどを配布しているデリバリーボーイズをみかけたことがありますか？										
参加したことがある	5	(16.1%)	7	(14.6%)	8	(14.0%)	4	(7.4%)	24	(12.6%)
見かけたことがある	15	(48.4%)	21	(43.8%)	26	(45.6%)	34	(63.0%)	96	(50.5%)
見たことがない	3	(9.7%)	9	(18.8%)	11	(19.3%)	10	(18.5%)	33	(17.4%)
知らない	8	(25.8%)	11	(22.9%)	12	(21.1%)	6	(11.1%)	37	(19.5%)
aktaが運営している下のWEBサイトをみたことがありますか？										
見たことがある	12	(38.7%)	22	(45.8%)	22	(38.6%)	29	(53.7%)	85	(44.7%)
見たことがない	19	(61.3%)	26	(54.2%)	35	(61.4%)	25	(46.3%)	105	(55.3%)

表３.CBO による予防啓発活動に対する共感、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。										
そう思う	10	(32.3%)	16	(33.3%)	22	(38.6%)	23	(42.6%)	71	(37.4%)
ややそう思う	8	(25.8%)	9	(18.8%)	14	(24.6%)	15	(27.8%)	46	(24.2%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	7	(14.6%)	7	(12.3%)	5	(9.3%)	24	(12.6%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	4	(8.3%)	2	(3.5%)	5	(9.3%)	14	(7.4%)
そう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	2	(3.7%)	8	(4.2%)
aktaの活動を知らない	5	(16.1%)	10	(20.8%)	8	(14.0%)	4	(7.4%)	27	(14.2%)
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。										
そう思う	8	(25.8%)	8	(16.7%)	18	(31.6%)	17	(31.5%)	51	(26.8%)
ややそう思う	7	(22.6%)	16	(33.3%)	21	(36.8%)	14	(25.9%)	58	(30.5%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	12	(25.0%)	6	(10.5%)	11	(20.4%)	36	(18.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	5	(9.3%)	10	(5.3%)
そう思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
aktaの活動を知らない	6	(19.4%)	9	(18.8%)	7	(12.3%)	6	(11.1%)	28	(14.7%)
aktaの活動に共感する。										
そう思う	11	(35.5%)	16	(33.3%)	27	(47.4%)	27	(50.0%)	81	(42.6%)
ややそう思う	7	(22.6%)	17	(35.4%)	14	(24.6%)	16	(29.6%)	54	(28.4%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	5	(10.4%)	5	(8.8%)	6	(11.1%)	21	(11.1%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	0	(0.0%)	5	(2.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
aktaの活動を知らない	6	(19.4%)	8	(16.7%)	8	(14.0%)	5	(9.3%)	27	(14.2%)
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。										
そう思う	13	(41.9%)	12	(25.0%)	22	(38.6%)	23	(42.6%)	70	(36.8%)
ややそう思う	6	(19.4%)	17	(35.4%)	16	(28.1%)	13	(24.1%)	52	(27.4%)
どちらともいえない	5	(16.1%)	9	(18.8%)	6	(10.5%)	9	(16.7%)	29	(15.3%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	1	(1.8%)	2	(3.7%)	5	(2.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	4	(2.1%)
aktaの活動を知らない	7	(22.6%)	8	(16.7%)	9	(15.8%)	6	(11.1%)	30	(15.8%)
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。										
そう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	22	(38.6%)	20	(37.0%)	68	(35.8%)
ややそう思う	11	(35.5%)	16	(33.3%)	18	(31.6%)	17	(31.5%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	4	(12.9%)	8	(16.7%)	6	(10.5%)	8	(14.8%)	26	(13.7%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	3	(5.6%)	3	(1.6%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
aktaの活動を知らない	5	(16.1%)	9	(18.8%)	9	(15.8%)	6	(11.1%)	29	(15.3%)

表４. コミュニティ感覚、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。										
そう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	20	(35.1%)	21	(38.9%)	67	(35.3%)
ややそう思う	11	(35.5%)	15	(31.3%)	18	(31.6%)	18	(33.3%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	11	(22.9%)	11	(19.3%)	7	(13.0%)	36	(18.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	7	(14.6%)	4	(7.0%)	6	(11.1%)	19	(10.0%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	4	(7.0%)	2	(3.7%)	6	(3.2%)
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。										
そう思う	10	(32.3%)	10	(20.8%)	12	(21.1%)	14	(25.9%)	46	(24.2%)
ややそう思う	7	(22.6%)	15	(31.3%)	16	(28.1%)	24	(44.4%)	62	(32.6%)
どちらともいえない	12	(38.7%)	16	(33.3%)	16	(28.1%)	9	(16.7%)	53	(27.9%)
あまりそう思わない	2	(6.5%)	6	(12.5%)	6	(10.5%)	4	(7.4%)	18	(9.5%)
そう思わない	0	(0.0%)	1	(2.1%)	7	(12.3%)	3	(5.6%)	11	(5.8%)
新宿二丁目でしか得られないものがあると思う。										
そう思う	17	(54.8%)	24	(50.0%)	19	(33.3%)	32	(59.3%)	92	(48.4%)
ややそう思う	11	(35.5%)	19	(39.6%)	19	(33.3%)	11	(20.4%)	60	(31.6%)
どちらともいえない	3	(9.7%)	4	(8.3%)	7	(12.3%)	6	(11.1%)	20	(10.5%)
あまりそう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	9	(15.8%)	3	(5.6%)	12	(6.3%)
そう思わない	0	(0.0%)	1	(2.1%)	3	(5.3%)	2	(3.7%)	6	(3.2%)
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。										
そう思う	15	(48.4%)	14	(29.2%)	17	(29.8%)	18	(33.3%)	64	(33.7%)
ややそう思う	8	(25.8%)	17	(35.4%)	23	(40.4%)	19	(35.2%)	67	(35.3%)
どちらともいえない	7	(22.6%)	12	(25.0%)	8	(14.0%)	14	(25.9%)	41	(21.6%)
あまりそう思わない	1	(3.2%)	3	(6.3%)	5	(8.8%)	2	(3.7%)	11	(5.8%)
そう思わない	0	(0.0%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
新宿二丁目のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。										
そう思う	12	(38.7%)	10	(20.8%)	20	(35.1%)	17	(31.5%)	59	(31.1%)
ややそう思う	8	(25.8%)	21	(43.8%)	20	(35.1%)	21	(38.9%)	70	(36.8%)
どちらともいえない	8	(25.8%)	12	(25.0%)	10	(17.5%)	11	(20.4%)	41	(21.6%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	4	(7.4%)	13	(6.8%)
そう思わない	0	(0.0%)	3	(6.3%)	3	(5.3%)	1	(1.9%)	7	(3.7%)
新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をすることに、タブー感（ためらい）がある。										
そう思う	10	(32.3%)	6	(12.5%)	6	(10.5%)	7	(13.0%)	29	(15.3%)
ややそう思う	5	(16.1%)	8	(16.7%)	16	(28.1%)	11	(20.4%)	40	(21.1%)
どちらともいえない	10	(32.3%)	16	(33.3%)	13	(22.8%)	17	(31.5%)	56	(29.5%)
あまりそう思わない	3	(9.7%)	10	(20.8%)	7	(12.3%)	13	(24.1%)	33	(17.4%)
そう思わない	3	(9.7%)	8	(16.7%)	15	(26.3%)	6	(11.1%)	32	(16.8%)
新宿二丁目にHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。										
そう思う	25	(80.6%)	35	(72.9%)	42	(73.7%)	44	(81.5%)	146	(76.8%)
ややそう思う	5	(16.1%)	9	(18.8%)	9	(15.8%)	9	(16.7%)	32	(16.8%)
どちらともいえない	0	(0.0%)	3	(6.3%)	4	(7.0%)	1	(1.9%)	8	(4.2%)
あまりそう思わない	1	(3.2%)	1	(2.1%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
そう思わない	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)

表５.HIV 検査受検経験と性感染症罹患経験、年齢階級別

	24歳以下 (n=31)		25-29歳 (n=48)		30-39歳 (n=57)		40歳以上 (n=54)		合計 (n=190)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
生涯のHIV検査受検経験										
ある	17	(54.8%)	35	(72.9%)	43	(75.4%)	47	(87.0%)	142	(74.7%)
ない	14	(45.2%)	13	(27.1%)	14	(24.6%)	7	(13.0%)	48	(25.3%)
一番最近にHIV検査を受けた時期										
6か月以内	10	(58.8%)	18	(51.4%)	17	(39.5%)	12	(25.5%)	57	(40.1%)
6ヵ月から1年以内	3	(17.6%)	5	(14.3%)	6	(14.0%)	10	(21.3%)	24	(16.9%)
1年から3年以内	4	(23.5%)	7	(20.0%)	12	(27.9%)	18	(38.3%)	41	(28.9%)
3年以上前	0	(0.0%)	5	(14.3%)	8	(18.6%)	7	(14.9%)	20	(14.1%)
これまでに罹患したことがある性感染症										
1　梅毒	0	(0.0%)	3	(6.3%)	10	(17.5%)	11	(20.4%)	24	(12.6%)
2　A型肝炎	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(3.5%)	3	(5.6%)	5	(2.6%)
3　B型肝炎	1	(3.2%)	1	(2.1%)	6	(10.5%)	14	(25.9%)	22	(11.6%)
4　C型肝炎	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.8%)	0	(0.0%)	1	(0.5%)
5　クラミジア	1	(3.2%)	0	(0.0%)	3	(5.3%)	8	(14.8%)	12	(6.3%)
6　尖圭コンジローマ	0	(0.0%)	2	(4.2%)	2	(3.5%)	7	(13.0%)	11	(5.8%)
7　淋病	1	(3.2%)	1	(2.1%)	3	(5.3%)	4	(7.4%)	9	(4.7%)
8　HIV 感染症	1	(3.2%)	2	(4.2%)	4	(7.0%)	10	(18.5%)	17	(8.9%)
9　赤痢アメーバ	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.8%)	2	(3.7%)	3	(1.6%)
10　毛じらみ	4	(12.9%)	12	(25.0%)	12	(21.1%)	21	(38.9%)	49	(25.8%)
11　性器ヘルペス	1	(3.2%)	1	(2.1%)	2	(3.5%)	5	(9.3%)	9	(4.7%)
12　その他	0	(0.0%)	2	(4.2%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	2	(1.1%)
13　いずれもない	24	(77.4%)	30	(62.5%)	33	(57.9%)	14	(25.9%)	101	(53.2%)

表６.CBO 活動への共感とコミュニティ感覚（２区分）、HIV 検査受検経験別

	生涯でのHIV検査受検経験			１年以内のHIV検査受検			３年以内のHIV検査受検		
	ある (n=142)	ない (n=48)		ある (n=81)	ない (n=109)		ある (n=122)	ない (n=68)	
	n （列%）	n （列%）	*p* 値	n （列%）	n （列%）	*p* 値	n （列%）	n （列%）	*p* 値
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。									
そう思う/まあそう思う	94 (66.2%)	23 (47.9%)	0.024	50 (61.7%)	67 (61.5%)	0.971	79 (64.8%)	38 (55.9%)	0.228
それ以外	48 (33.8%)	25 (52.1%)		31 (38.3%)	42 (38.5%)		43 (35.2%)	30 (44.1%)	
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。									
そう思う/まあそう思う	88 (62.0%)	21 (43.8%)	0.027	51 (63.0%)	58 (53.2%)	0.179	75 (61.5%)	34 (50.0%)	0.125
それ以外	54 (38.0%)	27 (56.3%)		30 (37.0%)	51 (46.8%)		47 (38.5%)	34 (50.0%)	
aktaの活動に共感する。									
そう思う/まあそう思う	108 (76.1%)	27 (56.3%)	0.009	60 (74.1%)	75 (68.8%)	0.429	93 (76.2%)	42 (61.8%)	0.035
それ以外	34 (23.9%)	21 (43.8%)		21 (25.9%)	34 (31.2%)		29 (23.8%)	26 (38.2%)	
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。									
そう思う/まあそう思う	98 (69.0%)	24 (50.0%)	0.018	58 (71.6%)	64 (58.7%)	0.067	85 (69.7%)	37 (54.4%)	0.035
それ以外	44 (31.0%)	24 (50.0%)		23 (28.4%)	45 (41.3%)		37 (30.3%)	31 (45.6%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。									
そう思う/まあそう思う	102 (71.8%)	28 (58.3%)	0.082	60 (74.1%)	70 (64.2%)	0.148	88 (72.1%)	42 (61.8%)	0.141
それ以外	40 (28.2%)	20 (41.7%)		21 (25.9%)	39 (35.8%)		34 (27.9%)	26 (38.2%)	
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。									
そう思う/まあそう思う	101 (71.1%)	28 (58.3%)	0.1008	64 (79.0%)	65 (59.6%)	0.005	91 (74.6%)	38 (55.9%)	0.008
それ以外	41 (28.9%)	20 (41.7%)		17 (21.0%)	44 (40.4%)		31 (25.4%)	30 (44.1%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。									
そう思う/まあそう思う	86 (60.6%)	22 (45.8%)	0.0749	47 (58.0%)	61 (56.0%)	0.777	72 (59.0%)	36 (52.9%)	0.418
それ以外	56 (39.4%)	26 (54.2%)		34 (42.0%)	48 (44.0%)		50 (41.0%)	32 (47.1%)	
新宿二丁目でしか得られないものがあると思う。									
そう思う/まあそう思う	118 (83.1%)	34 (70.8%)	0.0663	72 (88.9%)	80 (73.4%)	0.008	101 (82.8%)	51 (75.0%)	0.198
それ以外	24 (16.9%)	14 (29.2%)		9 (11.1%)	29 (26.6%)		21 (17.2%)	17 (25.0%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。									
そう思う/まあそう思う	100 (70.4%)	31 (64.6%)	0.4497	59 (72.8%)	72 (66.1%)	0.318	86 (70.5%)	45 (66.2%)	0.538
それ以外	42 (29.6%)	17 (35.4%)		22 (27.2%)	37 (33.9%)		36 (29.5%)	23 (33.8%)	
新宿二丁目のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。									
そう思う/まあそう思う	101 (71.1%)	28 (58.3%)	0.1008	58 (71.6%)	71 (65.1%)	0.345	89 (73.0%)	40 (58.8%)	0.046
それ以外	41 (28.9%)	20 (41.7%)		23 (28.4%)	38 (34.9%)		33 (27.0%)	28 (41.2%)	
新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をすることに、タブー感（ためらい）がある。									
そう思う/まあそう思う	53 (37.3%)	16 (33.3%)	0.6192	34 (42.0%)	35 (32.1%)	0.162	46 (37.7%)	23 (33.8%)	0.594
それ以外	89 (62.7%)	32 (66.7%)		47 (58.0%)	74 (67.9%)		76 (62.3%)	45 (66.2%)	
新宿二丁目にHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。									
そう思う/まあそう思う	136 (95.8%)	42 (87.5%)	0.042	79 (97.5%)	99 (90.8%)	0.060	118 (96.7%)	60 (88.2%)	0.021
それ以外	6 (4.2%)	6 (12.5%)		2 (2.5%)	10 (9.2%)		4 (3.3%)	8 (11.8%)	

表７.CBO 活動への共感とコミュニティ感覚、性感染症罹患経験別、アナルセックス時のコンドーム使用別

コミュニティ感覚と性感染症罹患経験	何らかの性感染症に罹患した経験			一番最近のｱﾅﾙｾｯｸｽ時のｺﾝﾄﾞｰﾑ使用		
	ある (n=89)	ない (n=101)		使った (n=115)	使わなかった/不明 (n=58)	
	n （列%）	n （列%）	*p* 値	n （列%）	n （列%）	*p* 値
aktaの活動は、特別な人がやっているのではなく、自分の仲間がやっている活動だと感じる。						
そう思う/まあそう思う	62 (69.7%)	55 (54.5%)	0.032	76 (66.1%)	34 (58.6%)	0.335
それ以外	27 (30.3%)	46 (45.5%)		39 (33.9%)	24 (41.4%)	
aktaのメッセージは、自分への（私への）メッセージだと感じる。						
そう思う/まあそう思う	56 (62.9%)	53 (52.5%)	0.146	70 (60.9%)	32 (55.2%)	0.472
それ以外	33 (37.1%)	48 (47.5%)		45 (39.1%)	26 (44.8%)	
aktaの活動に共感する。						
そう思う/まあそう思う	69 (77.5%)	66 (65.3%)	0.065	82 (71.3%)	42 (72.4%)	0.878
それ以外	20 (22.5%)	35 (34.7%)		33 (28.7%)	16 (27.6%)	
aktaからのメッセージは、HIV（エイズ）や性感染症に対して前向きで話しやすい雰囲気を感じる。						
そう思う/まあそう思う	58 (65.2%)	64 (63.4%)	0.796	73 (63.5%)	39 (67.2%)	0.625
それ以外	31 (34.8%)	37 (36.6%)		42 (36.5%)	19 (32.8%)	
aktaは、新宿二丁目の雰囲気に溶け込んだ活動をしていると思う。						
そう思う/まあそう思う	64 (71.9%)	66 (65.3%)	0.331	76 (66.1%)	45 (77.6%)	0.119
それ以外	25 (28.1%)	35 (34.7%)		39 (33.9%)	13 (22.4%)	
新宿二丁目にいると、安心感のようなものを感じる。						
そう思う/まあそう思う	59 (66.3%)	70 (69.3%)	0.657	75 (65.2%)	44 (75.9%)	0.154
それ以外	30 (33.7%)	31 (30.7%)		40 (34.8%)	14 (24.1%)	
新宿二丁目に、誇りとか愛着のようなものを感じる。						
そう思う/まあそう思う	55 (61.8%)	53 (52.5%)	0.195	64 (55.7%)	36 (62.1%)	0.420
それ以外	34 (38.2%)	48 (47.5%)		51 (44.3%)	22 (37.9%)	
新宿二丁目でしか得られないものがあると思う。						
そう思う/まあそう思う	71 (79.8%)	81 (80.2%)	0.942	95 (82.6%)	45 (77.6%)	0.427
それ以外	18 (20.2%)	20 (19.8%)		20 (17.4%)	13 (22.4%)	
新宿二丁目のために何か私ができることがあれば参加や協力をしたいと思う。						
そう思う/まあそう思う	63 (70.8%)	68 (67.3%)	0.607	83 (72.2%)	36 (62.1%)	0.176
それ以外	26 (29.2%)	33 (32.7%)		32 (27.8%)	22 (37.9%)	
新宿二丁目のHIV（エイズ）や性感染症の予防活動に、自分も何らかの形で参加や協力をしたいと思う。						
そう思う/まあそう思う	63 (70.8%)	66 (65.3%)	0.423	85 (73.9%)	34 (58.6%)	0.040
それ以外	26 (29.2%)	35 (34.7%)		30 (26.1%)	24 (41.4%)	
新宿二丁目では、HIV（エイズ）について話をすることに、タブー感（ためらい）がある。						
そう思う/まあそう思う	34 (38.2%)	35 (34.7%)	0.612	42 (36.5%)	23 (39.7%)	0.688
それ以外	55 (61.8%)	66 (65.3%)		73 (63.5%)	35 (60.3%)	
新宿二丁目にHIV（エイズ）や性感染症の予防活動は必要だと思う。						
そう思う/まあそう思う	87 (97.8%)	91 (90.1%)	0.030	111 (96.5%)	55 (94.8%)	0.593
それ以外	2 (2.2%)	10 (9.9%)		4 (3.5%)	3 (5.2%)	

表.検査についての特徴的な語り

《検査を受ける意味》

・別に自分なんかいい、自分の人生なんか別にどうでもいいかなっていうか、そんなに自分を大事にして生きていこうという意識が、ちょっとゲイってことで薄れちゃって、結婚とか未来とか将来とかっていうことが、ほぼないという時代というか、まあ今は、そういう風潮じゃない。若い世代の中で、そんなに長生きしたくないという。とか言う子もいるよね。自暴自棄までいかないけどね、何かちょっと開き直った、どうにかなるんじゃないみたいな。死なないからいいやみたいな。

・その後の生活が、まずビジョンが見えてこない、まず。感染してたら、まず何をするのか。何をどうして、どう生活をしていったらいいんだろうというのが全く見えないから、感染したらね、何、どうすればみたいな。してないといいんだけど、とりあえず検査受ければわかるからという感じではあるから。

・カミングアウトしてて、親があっけらかんとしてれば、多分受けに行きなよぐらいは言ってくれると思う。

・何か自分が感染してない状態というのを確認してから東京へ行きたかった。ここで何もなかった、地元で何もなかったよというのを確認して。

・まだ未成年だから、親のこととか考えると、自分が、ただでさえ世間の風当たりが激しいじゃないですか、ゲイだというと。なのに、HIVとかというふうに言われたとしたら、もし、だから言われたとしたら、本当に、さっき言ったような最悪の形で親に言わないといけないし、そのHIVについても、親とかは、あんまり知識がないわけだから、そこで、また親から差別される

・Ｂ型肝炎になって、それがきっかけで親に、もう言わざるを得なくなっちゃって、何でこんな病気になったのって、それでカミングアウトしたという子がいた。

・もし宣告されたときにっていう、そのものの怖さっていうか、っていう覚悟がないと、なかなか

・そもそも保健所って、まず行ったことがないっていうところでの見知らぬ人しかいない。そこでaktaのパンフレットを見たときに安堵感は受けたけど、そこまで行かないと、もう知らぬ人。この人は検査する、受ける人なんだということ自体も、何か同じ人なんだとは思えないみたいなのも、隔離されたような人って感じの心境ではあったかな。

《地域と検査》

・そこら辺の地元でさ、「えっ」って思われたくないってなれば、やっぱりちょっと遠めのところに行こうかなとなれば、交通費だとかかかるし。

・一番最初は、めちゃめちゃ不安があったり、電話４、５回かけたけど、１回切って。結構入ったら行きやすかった。

《検査環境》

・月に現状で、毎日とかではないんだよね。何週目の何曜日の何とかとかなんだよね。だから、そういうのも、何だろう、悪い意味でタイミングを逃せちゃうということはあるのかな。だって覚悟が必要なんだよね。何日のこの日に行こうという覚悟が。

・都内のほうが、そういう情報も、陽性になったときの病院だったり、何かそういう制度だったり、そういうのも、ちゃんと確立してるはずだから、安心感はある。

・とりあえず地元で受けるしかないって。

・活動しょっぱなぐらいのときだから、とりあえず即日検査で安全なところ、ゲイにちゃんと理解があるようなところで。

《感染可能性の認知、検査の必要性》

・感染してるかもしれないという恐怖心に駆られたから行ったけど、多分そういうことがない限りは、まあフェラぐらいじゃ移らないだろうみたいな、アナルセックス、ゴムしてるし、移らないだろう。

・バックだけゴムつければみたいな、何か変な２丁目の常識というか、とりあえず、そのね。自分は大丈夫だろうという過信は結構してると思う。

・100人の人がセックスをしてたら、多分100人の人は心当たりもあって、なってるかもしれないで生活してる人が多分いるんだろうなと思う。

《その他》

・問診票みたいなのを書くのがあって、何も考えずに男性って丸つけたらそれについて（医師から）聞かれるもんだと、てっきり思ってたので、何か、どう思ったかというよりは驚いた。

「若い人」についての特徴的な語り

《検査》

・年齢は低ければ低いほど、ハードルは高いのかな。

・ただ１回行けば、別にもう２回目、３回目のハードルは、そんなに高くないのかなという気がする

・二十歳を超えてたらさ、何か自己責任で自分で全部できそうじゃん。超えてなかったら、親とかにバレたらどうしようみたいな。

・２丁目とか、こういう場所に出てくる人たちは、情報にやっぱり触れてる。（そうではない人は）まず保健所で無料で受けれるということも知らないし、何かお金がかかるというイメージ。

だから、若い子はお金がないから、なかったりするから、受けれないと。《メディアの影響》

・AVの影響もあると思う。AVで、こう、アナルセックスは気持ちいいもんだみたいなイメージがつけ加えられてて、生でやる映像も確かあるじゃん、

・BL漫画みたいな。漫画とかも、結構生でやってる。

・漫画に書いてあることは正しいってやっちゃう

《予防について》

・快感をとにかく重要視、生でやっても大丈夫だろうという考え

・コンドームとかオイルって買えないよね

・高校生の人なら、逆にコンドームが手に入りづらい

・最初買ったの、ネットじゃないかな。

・勉強して・・・恐怖心にあおられて。

・この人感染してないから大丈夫、次の人も感染してないから大丈夫っていう連鎖はある。

《情報・広告》

・ポップアップと、あとポップバナーがあるんですけど、ポップアップは毎回出てくるんですよ、課金してても。だけども、今後表示しないっていうボタンがあって、それを押すと、もう出てこないというような。

・サイトにアクセスまではいかないんで、あ、こういうのがあるんだ、うっとうしい、

・何かこの前、全部のアンケートに答えて500円くれますみたいなのがあって。先着で書いてあるから、まず無理だろうと思ってやったけど、普通にもらえた。30分ぐらいかかりますと書いてあって、まあいいよ、別にいいしみたいな。